

平成27年度病害虫発生予報第9号

平成27年12月1日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数は平年並	± ±
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップによる誘殺 数はやや多い	＋ ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	－
	コナジラミ類	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	－
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	多い	県全域	11月下旬の発生量が多い 12月の日照時間は平年並か少ない	＋ ±～＋
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	うどんこ病	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない 12月の日照時間は平年並か少ない	－ ±～+
	ハダニ類	多い	県全域	11月下旬の発生量が多い	+

・防除対策

[キャベツ・コナガ]

10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。また、コナガが発生しているほ場では、収穫後は速やかにすき込みましょう。

[キュウリ（施設）・べと病]

本日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

[イチゴ（施設）・ハダニ類]

10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

・留意事項

キャベツでは、菌核病の発生が多いほ場があります。発病株は伝染源となるので、早めに抜き取り、適切に処分しましょう。

ハクサイ軟腐病の発生は平年並の状況です。発病株は伝染源となるので、発生のあるほ場では早めに抜き取り、適切に処分しましょう。

トマトでは、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

施設野菜の灰色かび病は、例年気温が低下するこの時期から発生が多くなります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台11月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。